延岡の大人はみな
子どもたちの先生
延岡市キャリア教育支援センター

「よのなか教室」通信

延岡市キャリア教育支援センター通信 43 号　令和 3 年 2 月 10 日（水）

延岡小・学校『よのなか教室』　～夢をはぐくむ講演会～

延岡小学校では、毎年、4～6年生を対象に、複数のよのなか先生を招いて、標記の講演会を実施しています。本年度は、6 職種 7 名のよのなか先生にお出でいただき、貴重な講話をしていただきました。

講話では、今の仕事に就いたきっかけ、仕事の楽しさ・大変さ、また、将来に向けてのメッセージを熱く語ってくださり、子どもたちも将来の自分の姿を想像しながら、目を輝かせて聴いていました。

《講話をしていただいたよのなか先生》

首藤郁子さん【保育士】

今井久美子さん【美容師】

金井喬志さん【料理人】

津田 治さん【パティシエ】

谷内洸平さん【警察官】

中津川佳真さん【警察官】

後藤明根さん【消防士】

南中学校『よのなか教室』　“君たちの漕ぎ出す社会は可能性に満ちている”

南中学校の2年生（131名）を対象に、キャリア教育支援センター長の水永さんが、講話を行いました。

コロナ禍の影響で、学年全体で集まっての活動が制限されていた中、久しぶりの総合の時間の学習に、子どもたちの表情も弾んでいました。

君たちが漕ぎ出す社会は可能性に満ちている！
君たちの周りには、多様な働く姿がある！
自分にとって幸せとは何だろう？

【グループワークの様子】

子どもたちは、水永さんから投げかけられた質問に、グループワークを交えながら、熱心に考えていました。

自分の将来や道を決めなければならない 3 年生に向けて、今をどのように過ごしていけばよいのか・・・。

子どもたちにとって、自分を振り返る貴重な時間になりました。

～キャリア教育実践交流会～

本年度のキャリア教育実践交流会へのご参加、有り難うございました。

次回は、新年度になってから開催いたします。キャリア教育や学級経営でお悩みの課題等、ざっくばらんに意見交換ができればと思っています。

次年度も、たくさんのご参加をお待ちしています。

「キャリア教育を基盤とした学校づくり」

北浦中学校　校長　川島　正寛

昨年度より「キャリア教育を基盤とした学校づくり」を進めています。子どもたちが生きるsociety 5.0の未来を生き抜くのに必要な力を養うために、キャリア教育を充実させていきたいと考えています。

キャリア教育支援センターの水永様には当初より相談にのっていただき、アドバイスをいただきながら本校キャリア教育に道筋をつけていただきました。講師の選定においては、北浦で活躍されている身近な方から、ワールドワイドに活躍されている方まで幅広い方を紹介していただきました。

残念なこともありました。コロナ禍の中で、探求的な体験活動へと転換を図った職場体験学習ができなかったことです。

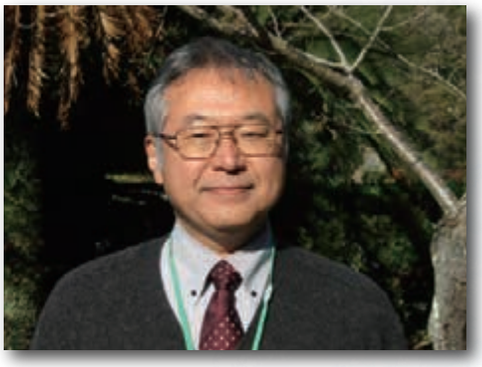
「キャリア教育を基盤とした学校づくり」はまだまだ緒に就いてはいませんが、北浦から目的をもって次世代を動かしていく人材が一人でも多く巣立つよう、地域と一体となって人づくりに努めて参りたいと思っています。

“風に立つライオン”に憧れて

熊野江小学校　校長　濵砂　一徹

私の心の中に、アフリカの大地に生きる“風に立つライオン”が住んでいる。さだまさし氏が歌う同タイトルのメロディは、時に、私の弱い心を鼓舞する。その歌のモデルとなった本県出身の柴田紘一郎医師の生き様は、人生の道標として私の心にそびえている。

私が“風に立つライオン”プロジェクトとして、受け持つ子ども達に道徳の授業を行い始めたのは、平成21年のことだった。以来、教頭、校長の職にあっても「夢をもって生きることの大切さ」について、6年生の子ども達と一緒に考えてきた。



現任校でも、先日、4名の子ども達を前に授業を行った。若き日の柴田医師は、脆弱なインフラの下で年間1500件もの手術を行い、約3年にわたってケニアの人々の命を救い続けた。授業の最後に、当時の柴田医師が映っているDVDを見た。白衣を身に纏い、心配そうに現地の患者を見つめる姿を、子ども達は食い入るように見つめていた。

自分を知ることが未来を拓く

土々呂小学校　校長　馬場　康年

以前、高校中退の生徒の就職支援をしたことがある。就職と離職を繰り返すことになり後悔が残る。今、振り返ると生徒自身の「やりたい」という意欲を特に尊重したことが招いた結果だと考える。「就きたい仕事」と「自分に合う仕事」はズレがあるところからスタートして、時間をかけてこの２つを近づけていく意識や作業が必要だと感じた。この作業を行う際、必要不可欠な能力の一つは「自己理解」ではないか。「自分はこんな性格だ」、「自分はこんなことが苦手だ」など自分なりに自分を分析することが重要だと考える。それが就きたい仕事に必要な技術や能力の他に、その仕事と上手に付き合える、例えば体調管理やスケージュール調整力を身に付けるための努力につながる。そのためには「自分らしい生き方が形成される過程」、いわゆる「キャリア発達」を振り返ることが大事ではないか。「キャリアパスポート」はこのことに一役買うかもしれない。